



図書館だより 第2号



新学期が始まって1カ月、ゴールデンウィークも終わりました。だんだん新しい環境に慣れてきた頃ですね。もうすぐ中間考査がはじまります。ぜひ図書室を活用してください。



本屋大賞2025 結果発表!



2025年本屋大賞



本屋大賞とは?

年に1回、新刊書店員がジャンルを問わず投票で決定する「文学賞」です。本屋大賞受賞作品はすべて図書室にあります。ぜひ読んでください。

大賞



2位

【アルプス席の母】 早見和真 著

まったく新しい高校野球小説が、開幕する!

「この物語に救われる球児の母親がどれだけいることか。全母親が落涙必至」(書評家 吉田信子さん)

秋山菜々子は、神奈川で看護師をしながら一人息子の航太朗を育てていた。湘南のシニアリーグで活躍する航太朗には関東一円からスカウトが来ていたが、選び取ったのはとある大阪の新興校だった。



3位

【小説】 野崎まど 著



5歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることとなった。十二歳になると、内海集司は小説の魅力と共有できる生涯の友・外崎真と出会い、二人は小説家が住んでるといふモジャ屋敷に潜り込む。そこでは好きなだけ本を読んでいても怒られることなく、小説家・髭先生は二人の小説世界をさらに豊かにしていく。しかし、その屋敷にはある秘密があった

【禁忌の子】 山口未桜 著

デビュー作にして2025年本屋大賞ノミネート!

救急医・武田の元に搬送されてきた一体の溺死体。その身元不明の遺体「キュウキュウ十二」は、なんと武田と瓜二つであった。彼はなぜ死んだのか、そして自身との関係は何なのか、武田は旧友で医師の城崎と共に調査を始める。しかし、鍵を握る人物に会おうとした矢先、相手が密室内で死体となって発見されてしまう。

4位



5位

【人魚が逃げた】 青山美智子 著

本屋大賞4年連続ノミネート! 今注目の著者が踏み出す、新たな一歩とは一。幸福度最高値の傑作小説!

ある3月の週末、SNS上で「人魚が逃げた」という言葉がトレンド入りした。どうやら「王子」と名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい歩き、「僕の人魚が、いなくなってしまって…逃げたんだ。この場所に」と語っているらしい。彼の不可解な言動に、人々はだんだん興味を持ち始め――。



【spring】 恩田陸

6位

自らの名に無数の季節を抱く無二の舞踏家にして振付師・萬(よろず)春。少年は八歳でバレエに出会い、十五歳で海を渡った。同年代に巡り合う、踊る者 作る者 見る者 奏でる者――それぞれの情熱がぶつかりあい、交錯する中で彼の肖像が浮かび上がってくる。一人の天才をめぐる傑作長編小説。



裏につづきます

7位



【恋とか愛とかやさしさなら】 一穂ミチ

プロポーズの翌日、恋人が盗撮で捕まった。

カメラマンの新夏は啓久と交際5年。東京駅の前でプロポーズしてくれた翌日、啓久が通勤中に女子高生を盗撮したことで、ふたりの関係は一変する。「二度としない」と誓う啓久とやり直せるのか、葛藤する新夏。啓久が「出来心」で犯した罪は周囲の人々を巻き込み、思わぬ波紋を巻き起こしていく。

8位



【生殖記】 朝井リョウ 著

とある電機メーカー総務部勤務の尚成は、同僚と二個体で新宿の量販店に来ています。体組成計を買うため—ではなく、寿命を効率よく消費するために。この本は、そんなヒトのオス個体に宿る〇〇目線の、おそらく誰も読んだことのない文字列の集積です。

9位



【死んだ山田と教室】 金子玲介 著

自分はなぜ生きているのか、なぜ死なないのか、逡巡の中にいるすべての人へ。
夏休みが終わる直前、山田が死んだ。飲酒運転の車に轢かれたらしい。山田は勉強が出来て、面白くて、誰にでも優しい、二年E組の人気者だった。二学期初日の教室。悲しみに沈むクラスを元気づけようと担任の花浦が席替えを提案したタイミングで教室のスピーカーから山田の声が聞こえてきた。山田の魂はどうやらスピーカーに憑依してしまったらしい。

10位



【成瀬は信じた道をいく】 宮島未奈 著

唯一無二の主人公、再び。その前途、誰にも予測不能

成瀬の人生は、今日も誰かと交差する。「ゼゼカラ」ファンの小学生、娘の受験を見守る父、近所のクレマー主婦、観光大使になるべく育った女子大生……。個性豊かな面々が新たに成瀬あかり史に名を刻む中、幼馴染の島崎が故郷へ帰ると、成瀬が書置きを残して疾走しており……?!読み応え、ますますパワーアップの全5編！



	2026年劇場公開決定！ クスノキの番人 東野圭吾 著
	人として成長していく玲斗と、クスノキをめぐる人々の物語。その木に祈れば、願いが叶うと言われているクスノキ。その番人を任された青年と、クスノキのもとへ祈念に訪れる人々の織り成す物語。不当な理由で職場を解雇され、その腹いせに罪を犯し逮捕されてしまった玲斗…
	待望のシリーズ第2弾！ クスノキの女神 東野圭吾 著
	少年と少女には秘密があった—。神社に詩集を置かせてくれと頼んできた女子高生の佑紀奈には、玲斗だけが知る重大な秘密があった。一方、認知症カフェで玲斗が出会った記憶障害がある少年・元哉は佑紀奈の詩集をみてインスピレーションを感じる。
	2年 稲山莉子さんおすすめ 西由比ヶ丘浜駅の神様 瀬村健 著
	亡くなった人に会いたいと思ったことはありませんか？この本では、事故現場である西由比ヶ浜駅から出る電車に乗ると、亡くなった人たちに会えるという話を聞き、遺族が会いに行きます。大切な人に再会した人たちのとる行動に涙が止まらなくなります。ぜひ一度読んでほしい作品です。
	2年 藤原心美さんおすすめ 余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話。 森田碧 著
	高1の冬に心臓病を患い、余命があと一年と宣告された秋人は通院先である病院に入院している春奈という同い年の少女と出会う。彼女も重い病気を患い、残りわずかの命だった。そんな彼女の前で秋人は自分の病気を隠しながら春奈との仲を深めていった。一緒に花火を見たり、二人の切なく儂い物語がおすすめの作品です。
	とにかくヘンな小説をお願いします まずは良識をみじん切りにします 浅倉秋成 著
	憎き取引先への復讐を計画する「そうだ、デスノートを作ろう」、集団心理を皮肉った「行列のできるクロワッサン」、第76回日本推理作家協会賞ノミネートの『ファーストが裏切った』など、日々の違和感を増殖、暴走させてたどり着いた前代未聞の五編。これも浅倉秋成、いや、これこそが浅倉秋成。
	頭のよさは、他人が決める 頭のいい人が話す前に考えていること 安達裕哉 著
	要点① あなたの頭のよさを決めるのは他者だ。「頭のいい人」と認められれば、話を聞いてもらいやすくなるだけでなく、自分の希望が通りやすくなる。 要点② コミュニケーションがうまい人は、自分の承認欲求を抑制し、他者の承認欲求を満たすことに注力している。 要点③ 「成り立ちを知ること」は、その対象を深く考えたり、新しいアイデアを出したりするヒントになる。

